

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ABホテル本庄	階数	地上9F
建設地	埼玉県本庄市	構造	RC造
用途地域	市街化区域、商業地域、準防火地域	平均居住人員	110人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月 予定	評価の実施日	2024年4月30日
敷地面積	1,443㎡	作成者	
建築面積	261㎡	確認日	2024年5月16日
延床面積	2,276㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

**標準計算**

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 74%  
③上記+②以外の 74%  
④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安を示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 4  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 本庄駅の南側に立地するビジネスホテルである。駅周辺の新しいまちづくりを意識し、今後の周辺整備の事例となる建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。		0
<b>Q1 室内環境</b> ホテル客室内の居住性を考慮し、遮音性確保や採光による昼光率向上を実現した。	<b>Q2 サービス性能</b> 客室利用者のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とし	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、災害時対策を考慮して、建物高を生かし蓄電池設置や排熱放出等を建築物の高い位置からとなるよう努め
<b>LR1 エネルギー</b> 建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、各客室での1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 本庄駅南口周辺は今後整備予定の開発地域であり、隣接して病院や大規模小売店舗がある。開放的なエントランスを設置し、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車場の台数確保など、日常の迅速な顧客対応に配慮した動線を検討した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)ABホテル本庄**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.2</b>	1.00		<b>3.1</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.40		
1 開口部遮音性能		A-51建具表より、T-2、資料①FL5+A6+FL5=T-1		<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能					-	<b>3.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	<b>3.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	<b>3.0</b>	0.20		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.7</b>	0.35	<b>2.4</b>	1.00		<b>2.5</b>
2.1 室温制御				<b>3.7</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.57		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.43		
3 ゾーン別制御性		K-03,04,05空調平面図より、40m程度ごとのゾーニング		<b>5.0</b>	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.8</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00		<b>3.5</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30		
1 昼光率		A-49建具表(2)、資料①昼光を効果的に利用できる開口を設定		<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30		
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御		E-13:1階平面図、共用部作業単位の制御、端末リモコン調整		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.9</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00		<b>3.9</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質		A-13仕上表:規制対象外建材の全面利用		<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.38		
1 換気量		資料①共用部1倍以上、客室1.4倍以上		<b>3.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.33		
2 自然換気性能		資料①客室1/15以上			-	<b>4.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視					-		-		
2 喫煙の制御		建物内全面禁煙		<b>5.0</b>	1.00		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.5</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00		<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.0</b>	0.40	<b>2.0</b>	0.60		
1 広さ・収納性					-	<b>1.0</b>	0.50		
2 高度情報通信設備対応					-	<b>3.0</b>	0.50		
3 バリアフリー計画		資料②福まち条例整備項目適合		<b>4.0</b>	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40		
1 広さ感・景観		A-13仕上表:客室天井高 2550-2700			-	<b>4.0</b>	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.50		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		A-06鉄鋼面さび止め塗装、A-16風除室2枚の建具間隔1m以上		<b>4.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30		-		<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.2</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		M-02特記仕様書(2):主に塩化ビニル管を利用		<b>5.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		K-02系統図より重要度に応じて系統を区分		<b>4.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				<b>2.0</b>	0.20		-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備				<b>3.0</b>	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.0	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり			-	-	1.0	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	A-16:2階平面図、資料①壁長さ比率		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	資料⑨配置図(緑地図)、資料①外構緑化指数		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	資料⑨配置図(緑地図)、資料①空地率、緑被率		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.7
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.85		4.5	0.20	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.69		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	A-17UB仕様詳細図、資料⑦UB洗面節水金物		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	資料④ビニル床材、軒天井材		4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	資料④壁紙用接着剤		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	A-10特記仕様書9、資料⑤断熱材ODP=0.GWP=1		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	K-02空調設備機器表、資料⑥新冷媒R32利用		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2概算値:74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	資料①③ 気象データ:埼玉県寄居、資料⑤卓越風向図		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)ABホテル本庄	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	-------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.0	+	2.3	=	6.3	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	4.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、災害時対策を考慮して、建物高を生かし蓄電池設置や排熱放出等を建築物の高い位置からとなるよう努めた。また、風通しを回復させるため、建築物の高さ形状、隣棟間隔に配慮した。			

: 入力欄